

2018年11月8日

日本生命保険相互会社

## ニッセイ インターネットアンケート

### ～「勤労感謝の日・仕事」に関する意識調査～

日本生命保険相互会社(社長:清水博)は、「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニューのひとつとして、ホームページ(<http://www.nissay.co.jp>)内の「ご契約者さま専用サービス」にて、「勤労感謝の日・仕事」に関するアンケート調査を実施いたしました。

#### 《調査概要》

- 調査期間：2018年10月1日(月)～10月15日(月)
- 調査方法：インターネットアンケート(「ずっともっとサービス」のサンクスマイルメニュー)
- 回答者数：8,021名(男性:4,176名、女性:3,845名)

<年代別回答者数>

[名]

年代	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～	合計
	男性	282	608	1,097	1,225	710	254
女性	313	717	968	1,009	572	266	3,845
合計	595	1,325	2,065	2,234	1,282	520	8,021
占率	7.4%	16.5%	25.7%	27.9%	16.0%	6.5%	100.0%

#### 《調査結果のポイント》

##### ポイント①

質問1～2

- 仕事に満足している方の割合は70.0%となった。
- 仕事に満足している理由は、**男性が「勤務地(33.4%)」で最も多く、女性は「勤務時間(42.1%)」が最も高い割合となった。**
- 1日の勤務時間は、男性が平均9時間となり、**女性は平均7.4時間となった。**
- 職場でストレスを感じると回答した割合は、64.3%となった。**

##### ポイント②

質問3

- 職場での“飲みニケーション”を「必要」だと思う方の割合は53.6%となった。  
－**男性は「必要」だと思う方の割合が過半数を超える60.4%となったが、女性は53.9%の方が「不要」と回答した。**
- “飲みニケーション”を必要だと思う理由は「本音を聞ける・距離を縮められる(58.2%)」が最も多い。  
－**20代では「仕事上の悩みを相談できる(41.1%)」も高い割合となった。**

##### ポイント③

質問4

- AIの普及・発達により、自分の仕事が将来的になくなると思うかの質問に「はい」と回答した方の割合は17.1%となり、「いいえ」「どちらでもない」と回答した方は82.9%となった。  
－**職種別で見ると、「いいえ」と回答した方は「技術・専門職(48.3%)」が最も多かった。**

質問 1-1 今の仕事に満足していますか？（回答者数：5,862名）

質問 1-2 【質問 1-1で「満足している」と回答した方への質問】

今の仕事に満足している理由は何ですか？ ※複数回答可（回答者数：4,105名）

質問 1-3 1日の勤務時間はどれくらいですか？※休憩時間を除く（回答者数：5,862名）

質問 1-4 昨年と比較して、有給休暇の取得日数は増えましたか？（回答者数：4,503名）

- 仕事に満足している方の割合は70.0%となった。
- 仕事に満足している理由は、男性が「勤務地(33.4%)」で最も多く、女性は「勤務時間(42.1%)」が最も高い割合となった。
- 1日の勤務時間は、男性が平均9時間に対し、女性は平均7.4時間となった。
- 有給休暇が昨年と比較して「増えた」と回答した方の割合は、男性は14.1%が「増えた」と回答しているのに対し、女性は19.0%となった。

■仕事に満足しているか

<男女別>

	(%)	
	はい	いいえ
男性	69.8	30.2
女性	70.4	29.6
全体	70.0	30.0

全体で **70.0%**の方が満足している

■仕事に満足している理由

<男女別>

(%)			(%)		
順位	満足している理由	男性	順位	満足している理由	女性
1位	勤務地	33.4	1位	勤務時間	42.1
2位	職場の雰囲気	29.9	2位	自分のやりたい仕事	38.9
3位	自分のやりたい仕事	28.1	3位	勤務地	27.0
4位	勤務時間	24.7	4位	楽な（忙しすぎない）仕事	23.2
5位	社会に貢献できる	22.2	5位	職場の雰囲気	22.2

■1日の勤務時間

<男女別>

	(時間)	
	時間	対前年
男性	9.0	+0.2
女性	7.4	▲0.7
全体	8.3	▲0.3

女性は**0.7時間減少**

■有給休暇取得日数の昨年との増減 ※パート・アルバイト・自営業除き

<男女別>

	(%)		
	有給休暇取得日数		
	減った	変わらない	増えた
男性	8.7	77.2	14.1
女性	8.8	72.2	19.0
全体	8.7	75.6	15.7

男女間で**4.9%の差**

(ご参考) 業種別 仕事に対する満足度

<業種別>

	(%)	
	はい	いいえ
農業・林業・漁業	79.3	20.7
公務	78.8	21.2
教育・医療・福祉	75.7	24.3
電気・ガス・熱供給・水道業	73.9	26.1
不動産業	71.2	28.8
サービス業	69.1	30.9
建設業	69.0	31.0
情報通信業	68.6	31.4
製造業	66.9	33.1
卸売業・小売業	66.7	33.3
運輸業・郵便業	66.5	33.5
金融業・保険業	66.3	33.7

【仕事に満足している理由】  
「農業・林業・漁業」の方の1位は「給与」、次いで、「自分のやりたい仕事」「勤務時間」となった

質問2-1 職場でストレスを感じますか？ (回答者数：5,802名)

質問2-2 【質問2-1で「感じる」と回答した方への質問】

職場で何に対してストレスを感じますか？ ※複数回答可 (回答者数：3,729名)

○職場でストレスを「感じる」と回答した割合は64.3%となった。

○職場でのストレス要因として最も多いのは「多忙(31.6%)」、次いで「職場の雰囲気が悪い(24.8%)」となった。

■職場でストレスを感じるか

<男女別>

	(%)	
	感じる	感じない
男性	64.9	35.1
女性	63.4	36.6
全体	64.3	35.7

■職場でのストレス要因

	(%)	
順位	ストレスの要因	全体
1位	多忙	31.6
2位	職場の雰囲気が悪い	24.8
3位	給与	20.2
4位	休暇が取得しにくい	12.4
5位	勤務時間	12.4

<ニッセイ基礎研究所 井上智紀 主任研究員のコメント>



男女とも7割の方が仕事に「満足」していますが、その理由の最上位は男性が「勤務地」、女性が「勤務時間」と違いがみられます。これは、女性の方が居住地からの距離の近さを前提として求職している可能性が高いパート等の職種の割合が高く、「勤務地」が満足の理由にはなりにくいことが一因となっているものと思われます。

一方、1日の勤務時間では、女性で0.7時間減少と男性(0.2時間増加)とは異なる結果となっています。厚生労働省「雇用均等基本調査」によれば、短時間勤務や所定外労働の制限など、育児・介護のための勤務時間短縮等の制度は企業への導入が広がってきていますが、こうした制度の利用は育児・介護休業制度と同様、依然として女性に偏っているものと思われます。また、同調査によれば、現状では企業への導入は限られているものの、短時間正社員制度についても利用者は女性に偏った状態にあるようです。こうした制度の利用に関する男女間の格差が双方の労働時間の変化にも現れているのではないのでしょうか。

質問3-1 職場での“飲みニケーション※”は必要だと思いますか？（回答者数：8,021名）

※ お酒を飲みながら語り合い、親交を深めること

質問3-2 職場での“飲みニケーション”が必要／不要だと思う理由は何ですか？ ※複数回答可

（回答者数：8,021名）

- 職場での“飲みニケーション”を「必要」だと思う方の割合は過半数を超える53.6%となった。
- 男性は「必要」だと思う方の割合が過半数を超える60.4%となったが、女性は53.9%の方が「不要」と回答した。
  - 年代別で見ると、「～20代」は「必要」と感じている方の割合が56.5%と最も高く、若い世代ほど「必要」と感じている方が多い。
- “飲みニケーション”を必要だと思う理由は「本音を聞ける・距離を縮められる(58.2%)」が最も多い
- 20代では「仕事上の悩みを相談できる(41.1%)」も高い割合となった。
- “飲みニケーション”を不要だと思う理由を男女別で見ると、男性は「仕事の延長だと感じる(36.1%)」と回答した方の割合が最も高く、女性は「気を遣う(39%)」と回答している方の割合が最も高かった。

■飲みニケーションは必要だと思うか

<男女別>

	（%）	
	必要	不要
男性	60.4	39.6
女性	46.1	53.9
全体	53.6	46.4

全体の過半数が“飲みニケーション”を必要と思っているが、女性は53.9%が不要と回答

<年代別>

	（%）	
	必要	不要
～20代	56.5	43.5
30代	54.3	45.7
40代	54.4	45.6
50代	51.6	48.4
60代～	53.6	46.4

「必要」の割合は20代が一番高い

■必要だと思う理由

<全体>

順位	必要だと思う理由	全体（%）
1位	本音を聞ける・距離を縮められる	58.2
2位	情報収集を行える	34.0
3位	人脈を広げられる	27.3
4位	仕事上の悩みを相談できる	26.6
5位	ストレス発散になる	26.1

<20代>

順位	必要だと思う理由	20代（%）
1位	本音を聞ける・距離を縮められる	50.3
2位	仕事上の悩みを相談できる	41.1
3位	情報収集を行える	33.6
4位	人脈を広げられる	30.7
5位	ストレス発散になる	23.2

■不要だと思う理由

<男女別>

不要だと思う理由	（%）		
	全体	男性	女性
気を遣う	37.4	35.4	39.0
仕事の延長と感じる	35.6	36.1	35.2
お酒が好きではない	29.7	28.9	30.3
お金がもったいない	27.4	29.8	25.5
拘束時間が長い	23.9	24.6	23.4

女性は「気を遣う」が1位で、男性は「仕事の延長と感じる」が1位

<ニッセイ基礎研究所 井上智紀 主任研究員のコメント>

年代を問わず過半数が「必要」と考えており、特に 20 代で高い結果となりました。20 代では必要だと思う理由として「仕事上の悩みを相談できる」が 4 割と 2 番目に高くなっていることから、単に親交を深めるだけでなく、多忙な仕事とは異なりゆっくり時間を取って相談できる機会として積極的に捉えているものと思われます。

一方で、「不要」だと思う理由では、男女で順位が異なり、女性では「気を遣う」が最も多く、僅かながら男性よりも高い割合となりました。このことは、周囲や女性自身のなかで、気遣いを求める（求められていると感じる）意識が根強く残っているためと思われます。なお男性では女性に比べ「お金がもったいない」とする割合がやや高くなっています。必要性を感じなければ支出に納得感が得られないのも当然ですから、裏を返せば必要と感じてもらうための工夫が求められているともいえそうです。

質問 4-1 AI の普及・発達によって、あなたの仕事は将来的になくなると思いますか？

(回答者数：5,697 名)

○AI の普及・発達により、自分の仕事が将来的になくなると思うかに「はい」と回答した方の割合は 17.1% となり、「いいえ」「どちらでもない」と回答した方は 82.9% となった。

一職種別で見ると、「いいえ」と回答した方は、「技術・専門職 (48.3%)」が最も多かった。

■あなたの仕事は将来的になくなると思うか

<年代別>

(%)

	はい	いいえ	どちらでもない
～20代	22.9	37.1	40.0
30代	22.0	37.6	40.3
40代	17.6	39.4	43.0
50代	14.4	43.4	42.2
60代～	11.0	46.2	42.8
全体	17.1	40.9	42.0

年代が若くなるほど、  
仕事が「なくなる」と思っている方が多い

82.9%の方が「いいえ」「どちらでもない」と回答している

<職種別>

(%)

	はい	どちらでもない	いいえ
技術・専門職	14.3	37.4	48.3
クリエイティブ職	17.9	34.3	47.8
営業・販売・サービス職	16.0	43.0	40.9
事務職	21.9	45.7	32.4

「いいえ」の割合は「技術・専門職」が 1 位

<ニッセイ基礎研究所 井上智紀 主任研究員のコメント>

AI の普及・発達により自分の仕事がなくなる可能性については、全体でも 2 割程度であり、年代によらず 4 割は「どちらともいえない」と回答しています。

これは、AI の活用範囲の幅の広さから、実際にどこまでの仕事が代替されるようになるのかが見通せず、判断を保留する層が多いためと思われます。また、年代が若いほど仕事がなくなると思っている割合が高くなっていることは、今後の職業人生の長さを鑑みれば、長期的にみれば AI の普及・発展の影響は避けられないものとみている現れではないでしょうか。

以上